

世界の人々と力合わせ

## 核兵器のない平和な世界を

### 原爆投下から77年

本格的な暑い夏を迎えました。もうすぐ8月6日・9日を迎えます。

いまから77年前、1945年8月6日、アメリカ軍により広島市に世界で初めて原子爆弾が投下されました。



「原子爆弾は、投下から43秒後、地上600メートルの上空で目もくらむ閃光を放って炸裂し、小型の太陽ともいえる灼熱の火球を作りました。火球の中心温度は摂氏100万度を超え、1秒後には半径200メートルを超える大きさとなり、爆心地周辺の地表面の温度は3,000～4,000度にも達しました。

爆発の瞬間、強烈な熱線と放射線が四方へ放射されるとともに、周囲の空気が膨張して超高压の爆風となり、これら3つが複雑に作用して大きな被害をもたらしました。

原爆による被害の特質は、大量破壊、大量殺りくが瞬時に、かつ無差別に引き起こされたこと、放射線による障害がその後も長期間にわたり人々を苦しめたことにあります」(広島市ホームページより)。

その3日後8月9日11時2分、長崎市にも投下されました。広島・長崎で、それぞれ数十万人が被ばくしました。

#### ぜひ、原爆に関する写真展をご覧ください！

袋井市役所2階「市民ギャラリー」にて

◎「原爆と人間」写真展と原爆絵画展

7月21日～7月28日

主催 新日本婦人の会袋井支部

◎非核平和都市宣言を考える「平和写真展」

8月1日～8月10日

主催 袋井市勤労者協議会

### 原水爆禁止世界大会

1954年3月1日未明、アメリカが太平洋ビキニ環礁で水爆実験「ブラボー」を行いました。広島に落とされた原爆の1000倍の威力により出た「死の灰」はマーシャル諸島島民や周辺海域で操業していた日本などのマグロ漁船に降り注ぎました。

焼津港を母港とする第五福竜丸をはじめ、実験での被害

が広く知られると、それへの抗議の運動は、その月のうちに全国に広がりました。なかでも大きな役割を果たしたのは、全国各地で自発的に沸き起こった署名運動です。

その広がりの中で、世界大会の準備会と署名運動全国協議会が統合した日本原水協の結成や日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)結成へとつながっていきました。

こうした原水爆禁止を求める大きな国民の声を背景に、1955年8月、広島で第1回原水爆禁止世界大会が、翌56年には、長崎で第2回原水爆禁止世界大会が開かれました。以来毎年、世界の人々と連帯して世界大会が開催されてきました。

今年の原水爆禁止世界大会は、「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を - 人類と地球の未来のために」をテーマに8月4日から9日まで、3年ぶりに広島・長崎の被爆地でも開催されます。さらにオンラインも併用し、大会と全国・世界を結びます。

袋井市でも、オンライン視聴会場を設け、オンライン参加をします。



#### 原水爆禁止 2022 世界大会オンライン参加を！

会場は、いずれも日本共産党袋井市委員会事務所

◎「ヒロシマデー集会」

8月6日(土) 10:30～13:00

◎「ナガサキデー集会」

8月9日(火) 10:30～13:00

### 核兵器廃絶の時代を拓こう

核兵器禁止条約が発効し、6月には核兵器禁止条約締結国会議が開かれました。また、8月には第10回NPT再検討会議が開催されます。

いま、被爆国日本の原水爆禁止の世論と運動は、核兵器のない世界を実現させる上で、特別に重要な役割を持っています。

岸田内閣は、ロシアのウクライナ侵略を機に、日本をアメリカの核戦略態勢に組み込み、アメリカとともに戦争する国づくりをすすめています。「戦争か平和か」、「核兵器の禁止か核破局の脅威か」、国民一人ひとりにその選択が問われています。「戦争はさせない」「核兵器は廃絶を」の声をさらに高めましょう。